

2027年国際園芸博覧会
サステナビリティコミュニケーション・
エンゲージメント計画



2025 年 3 月策定

2026 年 9 月更新

公益社団法人 2027 年国際園芸博覧会協会

目次

- 1 はじめに 1
 - 1.1 目的 1
 - 1.2 対象者 1
 - 1.3 メッセージ 2
 - 1.4 発信方法 2
 - 1.5 メディア 2
- 2 実施計画 3
 - 2.1 アクション 3
 - 2.2 ガントチャート 16
- 3 評価 18

1 はじめに

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会（以下「協会」という。）は、2027年国際園芸博覧会（以下「本園芸博」という。）の開催に必要な事業及びその方針を示した「2027年国際園芸博覧会基本計画（以下「基本計画」という。）」を2023年1月に策定し、本園芸博のテーマを「幸せを創る明日の風景」としている。

また、国際園芸家協会（以下「AIPH」という。）の規則等に基づき、サステナブルな国際園芸博覧会を実現するため、基本方針や目標等を定めた「サステナビリティ戦略（以下「戦略」という。）」と、戦略を実現するためのアクションや実施スケジュール等を定めた「サステナビリティ実施計画」を2024年3月に策定し、AIPHに提出した。

協会は、基本計画や戦略、実施計画等で検討した内容を踏まえ、「サステナビリティコミュニケーション・エンゲージメント計画（以下「C&E計画」という。）」を2025年3月に策定し、2026年9月に更新した。

なお、協会では、環境や人権、労働等の専門家で構成する「持続可能性有識者委員会」において、サステナビリティ戦略、実施計画、サステナビリティ教育計画（以下「教育計画」という。）、C&E計画等の検討を行った。有識者委員会の資料については、協会のウェブサイト(<https://expo2027yokohama.or.jp/>)で公表している。

C&E計画の策定に当たり、AIPHの要求事項である、C&E計画の目的、対象者、AIPHが特に重視する対象者に対するアクション、メッセージ、発信方法、メディアについて、以下の通り記載する。

1.1 目的

C&E計画は、様々なメディアでの情報発信と双方向のコミュニケーション等により、本園芸博のテーマやサステナビリティに関するメッセージを来場者や市民・地域社会等の対象者に発信することを目的とする。

1.2 対象者

C&E計画では、サステナビリティ実施計画で設定した、本園芸博の成功に重要な役割を果たすステークホルダーである、「来場者」、「出展者等」、「ボランティア」、「市民・地域社会」、「NPO・NGO」、「事業者」、「有識者等」、「政府・自治体」、「協会職員・運営スタッフ等」の9つから対象者を設定する。

AIPHが特に重視する3つの対象者である、「来場者」、「開催地の市民・国民」、「国際的なオーディエンス」に対しては、以下のようなアクションを実施する。なお、「開催地の市民・国民」、「国際的なオーディエンス」は、対象者のうち、「市民・地域社会」が該当する。

「来場者」に対しては、公式ウェブサイトやSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等での情報発信、公式マスコットキャラクターの活用等のアクションを実施する。

「開催地の市民・国民」に対しては、開催1000日前イベントの実施、全国都市緑化フェア等のイベントとの連携、市民参加の活動の推進等のアクションを実施する。

「国際的なオーディエンス」に対しては、公式ウェブサイトやSNS等での情報発信、サステナビリティ

ィレポートの策定・AIPH 報告等のアクションを実施する。

1.3 メッセージ

協会は、サステナビリティに関するメッセージとして、本園芸博の開催を通じ、テーマである「幸せを創る明日の風景」を発信する。

本テーマには、一人ひとりが心に「幸福感を深める」ための種を自分の意志で蒔き、これを人や環境との関わりの中で育み、生命力にあふれ、個性豊かに、多彩な花を咲かせること、それが豊かさを深める社会の風景である、という思いを込めている。

1.4 発信方法

協会は、基本計画の「第 9 章 コミュニケーション計画」で整理した、広報活動、プロモーション活動、連携・支援活動、教育活動の 4 つのコミュニケーション活動を通じて、サステナビリティに関するメッセージを発信する。

1.5 メディア

協会は、協会の公式ウェブサイトや SNS 等のほか、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等のマスメディアと連携して情報発信する。

2 実施計画

2.1 アクション

サステナビリティ実施計画では、サステナビリティ戦略で設定した各目標を実現するためのアクションを記載した。このサステナビリティ実施計画に記載した目標・アクションのうち、サステナビリティC&Eに関する目標・アクションと、C&E計画の策定及び更新に伴う追加的なアクションを含めた計52のアクションを記載する。

各アクションについて、実施目的、責任者、方法、メッセージ、主な対象者、対象人数、タイムライン（頻度・時期）等を記載する。

記載項目	概要
実施目的	アクションの実施目的
責任者	アクションを実施する責任者
方法	アクションの実施方法
メッセージ	アクションを通じて主な対象者に発信するメッセージ
主な対象者	アクションの主な対象者
対象人数	定義した対象者の人数
タイムライン（頻度・時期）	アクションを実施する頻度や時期等のタイムライン

目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象人数	タイムライン (頻度・時期)	更新
会場計画へのユニバーサルデザインの導入	9-3-1	アクセシビリティ・ガイドラインの策定・推進	全ての人が安全・快適に過ごせるように配慮した計画・整備を行うため、ガイドラインを策定・推進する	協会	アクセシビリティ・ガイドラインを策定し、ガイドラインに沿って計画・整備・運用を実施	全ての人が安全・快適に過ごせるように配慮した園芸博を実現する	(建設・施設管理者) 出展者等、事業者、協会職員・運営スタッフ等	未算定	・検討会の開催、アクセシビリティ・ガイドラインの策定：2024 年度 ・準備、開催期間中に、ガイドラインに沿って計画・整備・運用を行う	
海外からの参加者（公式参加者）に向けた情報提供	10-1-3	海外からの参加者（公式参加者）への各種規則・ガイドライン等の策定・周知	各種規則・ガイドライン等を策定し、本園芸博の趣旨や、展示・出展・コンペティション、各種申請や手続き、サプライヤー等に関する情報を共有する	協会	公式参加者向けウェブページ等を用いた情報提供	人と自然が共生する未来社会の在り方として「日本モデル」を提示し、本園芸博の開催意義を共有する	出展者等（公式参加者）	70 程度の国・国際機関	・各種規則・ガイドライン等の策定・周知：2022 年～	
サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告	12-2-1	プレイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告	本園芸博で実施するサステナビリティに関連する活動等をレポートに記録し、国際的なレガシーとして継承する	協会	レポートの策定・AIPH 報告	レポートの策定・AIPH 報告等を通じ、レガシーとして継承する	全てのステークホルダー	未算定	・レポートの策定・AIPH 報告：2026 年 9 月まで	
サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告	12-2-2	ポストイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告	本園芸博で実施するサステナビリティに関連する活動等をレポートに記録し、国際的なレガシーとして継承する	協会	レポートの策定・AIPH 報告	レポートの策定・AIPH 報告等を通じ、レガシーとして継承する	全てのステークホルダー	未算定	・レポートの策定・AIPH 報告：2027 年 12 月まで	
サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告	12-2-3	サステナビリティ及びレガシーレポートの策定・AIPH 報告	本園芸博で実施するサステナビリティに関連する活動等をレポートに記録し、国際的なレガシーとして継承する	協会	レポートの策定・AIPH 報告	レポートの策定・AIPH 報告等を通じ、レガシーとして継承する	全てのステークホルダー	未算定	・レポートの策定・AIPH 報告：2030 年 9 月まで	
(追加)	add-0-1	協会職員への研修の実施	協会職員に対して、サステナビリティを含む研修を実施し、意識を向上させる	協会	研修の実施	サステナビリティを含む研修を実施し、意識を向上させる	(建設・施設管理者) 協会職員	未算定	・転入者研修：職員着任時等 ・テーマ別研修：随時	
(追加)	add-0-3	公式ウェブサイトでの情報発信	公式ウェブサイトで、本園芸博の開催概要や検討状況などについて、海外も含めて情報発信を行う	協会	本園芸博の開催概要や検討状況のほか、事業者等の出展・参加、サステナビリティ等の情報をより充実させ、積極的に情報発信	アクセシビリティやユーザビリティに配慮し、公式ロゴマークのデザインと連動させた、より閲覧しやすいウェブサイトに変更する	全てのステークホルダー	未算定	・公式ウェブサイトでの情報発信を随時実施	
(追加)	add-0-4	公式 SNS の活用	公式 SNS を活用して本園芸博のブランドイメージや認知度の向上、市民との連携促進を図る	協会	公式 SNS を活用した情報発信	公式 SNS を活用して、本園芸博の認知度の向上と機運醸成に努める	全てのステークホルダー	未算定	・公式 SNS を活用した情報発信を随時実施	

目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象人数	タイムライン (頻度・時期)	更新
(追加)	add-0-5	公式アンバサダーによる機運醸成	公式アンバサダーと一緒に、本園芸博の機運醸成を図る	協会	公式アンバサダーに記者発表会等のイベントに出席いただき、情報発信	公式アンバサダーと一緒に、本園芸博の機運醸成を図る	全てのステークホルダー	未算定	・公式アンバサダーの就任発表：2023年9月19日 芦田愛菜（俳優）、2026年3月19日 ゆず（ミュージシャン） ・公式アンバサダーによる機運醸成：～開催期間	○
(追加)	add-0-6	公式マスコットキャラクターの活用	「人と地球の自然との、新たな関係を育むコミュニケーター」として、機運醸成に活用する	協会	機運醸成に活用	人と地球の自然との、新たな関係を育むコミュニケーター	全てのステークホルダー	未算定	・マスコットの発表・名前の公募：2024年3月19日 ・マスコットの名前「トウナクトウナク」の決定：2024年6月22日 ・マスコットの活用：～開催期間	
(追加)	add-0-7	全国都市緑化フェアとの連携	園芸博との関係性が深い全国都市緑化フェアと連携し、協会として出展するなど、本園芸博の機運醸成を図る	協会、政府・自治体	フェアとの連携、出展等	フェアの統一基本理念である「緑ゆたかなまちづくり」に向けて連携を進める	来場者、出展者等、市民・地域社会	仙台フェア来場者数：115万7千人	・仙台フェア：2023年4月26日～6月18日 ・かわさきフェア：2024年10月19日～11月17日 2025年3月22日～4月13日 ・今後のフェアとの連携：～開催期間	
(追加)	add-0-8	浜名湖花博2024（20周年記念事業）との連携	AIPH が承認する本園芸博として2004年に開催された浜名湖花博の20周年記念事業と連携し、本園芸博の機運醸成を図る	協会、政府・自治体	浜名湖花博2024での本園芸博の機運醸成	浜名湖花博2024での本園芸博の機運醸成	来場者、出展者等、市民・地域社会	来場者数：約100万人	・浜名湖花博2024：2024年3月23日～6月16日 ・今後のフェアとの連携：～開催期間	○
(追加)	add-0-9	ガーデンネットワーク横浜との連携	横浜市等が毎年開催しているガーデンネットワーク横浜と連携し、本園芸博の機運醸成を図る	協会、政府・自治体	ガーデンネットワーク横浜との連携企画の実施	本園芸博に向けて、花と緑の取組を広げる	来場者、出展者等、市民・地域社会	未算定	・ガーデンネットワーク横浜2024への参加：2024年5月3日～6月9日 ・ガーデンネットワーク横浜2025への参加：2025年3月19日～6月15日	○

目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象人数	タイムライン (頻度・時期)	更新
(追加)	add-0-10	横浜フラワー&ガーデンフェスティバルとの連携	毎年開催予定の横浜フラワー&ガーデンフェスティバル（以下「横フラ」という。）と連携し、本園芸博の機運醸成を図る	協会、事業者、政府・自治体	横フラとの連携企画の実施	日本最大級の新しい園芸イベントとして、花き・園芸産業の振興を図る	来場者、出展者等、市民・地域社会	来場者数：約3万5千人	・横フラ 2024 への参加：2024 年 5 月 3 日～6 日 ・横フラ 2025 への参加：2025 年 5 月 3 日～5 日	○
(追加)	add-0-11	開催 1000 日前イベントの実施	国内外の多くの方に参加・参画いただき、一人ひとりの市民が多様に参加・参画し、ともに創り上げる園芸博を目指していくためのキックオフとする	協会	ワークショップやステージイベント、展示等のプログラムの実施	市民参加のキックオフ！ “幸せを創る明日の風景”を共に描く 2days	来場者、出展者等、市民・地域社会	来場者数：約3万人	・イベント実施：2024 年 6 月 22～23 日	
(追加)	add-0-12	県立横浜瀬谷高等学校等による「フラワーロードプロジェクト」との連携	横浜瀬谷高校の生徒等が、市民参加の活動として関係団体と協力し、瀬谷駅前から本園芸博会場までの道路 1.5 キロメートルに花を植栽する「フラワーロードプロジェクト」を実施し、機運を醸成する	市民・地域社会	瀬谷駅前から本園芸博会場までの道路に花を植栽	瀬谷に花を咲かせよう！ GREEN×EXPO 2027 につなげよう！	市民・地域社会（学生・教職員等）	第 5 回プロジェクト参加者：約 250 人	・第 5 回プロジェクト：2023 年 12 月 10 日	
(追加)	add-0-13	県立農業高校との共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」の推進	花や緑、農・食の未来を牽引する次世代のリーダーの育成を目指し、本園芸博について学び、積極的に参加できる場として活動する	協会、市民・地域社会	本園芸博のテーマなどを学び、企画案を考えるなどの活動を実施	神奈川県立の農業高校 5 校の生徒による未来のための共創プロジェクト	市民・地域社会（学生・教職員等）	高校生メンバー：49 人	・CLUB の立ち上げ：2023 年 12 月 8 日 ・プレゼン発表会の開催：2024 年 6 月 17 日 ・今後の活動：～開催期間	
(追加)	add-0-14	ヨコハマ未来創造会議との連携	本園芸博の開催を契機に、次世代を担う若者が環境にやさしい生活や社会を目指して議論し、アクションを起こすきっかけをつくり、GREEN×EXPO 2027 での発信と新たなグリーン社会の実現を目指す	政府・自治体	ヨコハマ未来創造会議との連携	次世代を担う若者とともに GREEN×EXPO 2027 を創り、その感性とアイデアを未来の横浜に繋げる	市民・地域社会（学生・若者世代等）	ヨコハマ未来創造会議メンバー：約 120 人	・キックオフイベントの開催：2023 年 12 月 10 日 ・本格始動フラッグアップイベントの開催：2024 年 7 月 30 日 ・中間発表会の開催：2024 年 10 月 8 日 ・ワークショップの開催：月 1 回	

目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象人数	タイムライン (頻度・時期)	更新
(追加)	add-0-15	大学共創フォーラムの開催	本園芸博の目指すビジョンや共創の姿を全国の大学関係者と共有し、出展等の大学の参加・連携、学生の参加等について、理解いただく	協会	オンラインによるフォーラムの開催	フォーラムを契機として、出展等の大学の参加・連携、学生の参加等につなげる	市民・地域社会（学生・教職員等）	未算定	・フォーラムの開催：2024年5月31日、6月5日	
(追加)	add-0-16	教育プログラム コンセプトブックの活用	本園芸博が児童・生徒の探究学習の場として、相応しい場であることの認識を深め、今後の教育旅行・体験学習の場として選択される	協会	国内各教育委員会への発信、公式ウェブサイトへの掲載、その他 PR 活動などにより学校現場での活用を促進	本園芸博は、子どもたちの自ら考える力や想像力を育み、新たな価値観、行動変容のきっかけとなることを目指す	来場者、市民・地域社会（児童・生徒・教職員等）	未算定	・コンセプトブックの公表：2024年11月 ・コンセプトブックの活用：～開催期間	
(追加)	add-0-17	「応援メッセージ付き公式ロゴマーク」を使った市民参加の活動の推進	市民（個人、団体、教育機関等）の活動で利用できる「応援メッセージ付き公式ロゴマーク」を作ること、市民の博覧会への参加意識を高める	協会	市民活動の募集開始：2024年7月～	応援の輪を広げ、市民との一体感を高める	市民・地域社会、NPO・NGO、事業者	未算定	・市民活動の募集開始：2024年7月～	
(追加)	add-0-18	ボランティア等の市民参加の推進	園芸博ならではのボランティア活動を通じて、環境に対する意識の向上を促す	協会	ボランティア等の市民参加の推進	「市民と共に創る GREEN×EXPO」を体現すると共に、本園芸博後にも継承されるレガシーを市民とともに形成していくことを目指す	ボランティア、市民・地域社会、NPO・NGO	ボランティア参加者想定：8,000人	・ボランティアの募集：2025年度～ ・開催期間にボランティアによる会場運営を実施	
(追加)	add-0-20	公式参加者（国・国際機関）の出展を通じた情報発信	世界各国や国際機関等による出展により、世界の多様な園芸文化、食農文化、環境施策等を発信する	協会、出展者等（公式参加者）	公式参加者の出展やナショナルデー・スペシャルデー等を通じた情報発信	各国・組織の様々な分野での技術や文化、知識を披露し、花き・造園産業、食や農、環境に係る取組等の発展に寄与する	来場者	有料来場者数：1,000万人以上	・開催期間に公式参加者の出展を通じた情報発信を実施	
(追加)	add-0-21	花・緑出展を通じた情報発信	出展者の庭園作品や生製品を展示し、コンペティションにより技術や魅力を世界へ発信する	協会、出展者等	花・緑出展やコンペティション等を通じた情報発信	日本の園芸の技術や魅力を世界へ発信する	来場者	有料来場者数：1,000万人以上	・開催期間に花・緑出展を通じた情報発信を実施	
(追加)	add-0-22	Village 出展を通じた情報発信	GREEN の力と産業活動が融合した姿を示し、本園芸博のテーマである「幸せを創る明日の風景」を創出する	協会、出展者等	Village 出展を通じた情報発信	GREEN の力と産業活動が融合した姿を示す	来場者	有料来場者数：1,000万人以上	・開催期間に Village 出展を通じた情報発信を実施	

目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象人数	タイムライン (頻度・時期)	更新
(追加)	add-1-1	ネイチャーポジティブの実現に向けた取組に関する情報発信	開催地周辺の豊かな自然環境を活用した取組や、自然との共生の在り方を発信することにより、意識変容・行動変容を促すことで、ネイチャーポジティブの実現を図る	協会、出展者等	ネイチャーポジティブの実現に向けた取組に関する情報発信	ネイチャーポジティブ社会の実現を呼びかける	全てのステークホルダー	未算定	・準備、開催期間に情報発信を実施	○
(追加)	add-1-2	参加ガイドラインの策定・推進	一般規則及び特別規則の下、主に公式参加者を対象として、博覧会運営関連業務の詳細な作業手順・基準・各種申請手続きの内容を定め、開催者が参加者に示す。	協会	・Web ページの公開 ・対面・オンライン説明会	主に公式参加者に対して、出展準備を具体的に進めるにあたって必要な各テーマ（保険、商業活動等）に応じた規制、国内ルール・手続き等に関する情報を順次提供する。	出展者、事業者等 ※各種ガイドラインごとに対象が異なる	未算定	・各種ガイドラインの進捗に応じ、会期まで随時発出。	○
(追加)	add-1-5	テーマ催事を通じた情報発信	省庁等と連携の上、「幸せを創る明日の風景」及びサブテーマである「自然との調和」「緑や農による共存」「新産業の創出」「連携による解決」に向け、テーマ催事等を実施する。	協会、省庁等	テーマ催事等を通じた発信	園芸博のテーマ及びサブテーマに向けて、様々な社会課題解決へのチャレンジを博覧会という場と手法で取り組む	来場者	有料来場者数：1,000 万人以上	・開催期間にテーマ催事を通じた情報発信を実施	○
(追加)	add-1-6	ダイバーシティ&インクルージョンに関する情報発信	園芸博のテーマ実現に向けた多様性の尊重、多様な人材の知見や参画を活かした取組	省庁、協会等	イベント実施	ジェンダー平等・女性活躍への取組の重要性と推進の必要性、認知拡大。大阪・関西万博のレガシーを継承し、社会での実装に繋げる	市民・地域社会、有識者等、政府・自治体	未算定	・会期前：2026 年 3 月の「国際女性デー」にあわせたイベントの他、国際的なイベントの実施 ・会期中：イベント実施	○

目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象人数	タイムライン (頻度・時期)	更新
(追加)	add-1-9	ユニフォームに係る資源循環の取組発信	①アテンダントスタッフ・ボランティアの使用後のユニフォームを「P-FACTS」のスキームを使用し、「回収→堆肥化→地域循環」までを行う取組を発信 ②VIP アテンダントスタッフの使用後のユニフォームを回収し、フラワーポットに再商品化する取組を発信	協会、事業者	・着用するスタッフへの周知 ①メディアカンファレンス 2026 でのアテンダントスタッフ・ボランティアユニフォーム発表 ②横浜フラワー&ガーデンフェスティバル 2026 におけるステージ等でのVIP アテンダントスタッフユニフォーム発表会	GREEN×EXPO 2027 におけるサステナビリティの取組を発信し、サステナビリティの意識向上を図る	市民・地域社会、ボランティア、事業者、協会職員・運営スタッフ等	未算定	・2027 年 3 月 19 日から会期後まで ①メディアカンファレンス：2026 年 3 月 25 日 ②VIP アテンダントスタッフユニフォーム発表会：2026 年 5 月 2 日	○
(追加)	add-1-10	「人・自然・生命」シンポジウム	花や緑を慈しみ、自らの心を映してきた日本人の自然観を基礎に、シリーズ化したシンポジウムを開催し、本園芸博の機運喚起と自然と人間との共生の浸透を図る。	協会 花博協会	年に一度収容人数 500 人程度のホールにて開催	博覧会の機運喚起と自然と人間との共生の浸透を図る	全てのステークホルダー	来場者数：約 300 人	・年一度	○
(追加)	add-1-11	庭園フォーラム	3 者が連携して各回のテーマに沿って日本庭園について考察する。	東京大学 ポータル インド日本 庭園 ジャパン・イン スティテ ュート 協会	年に一度東京大学内の施設にて開催	テーマに沿って様々な分野の有識者による討議を行い、「日本庭園」について国内外からの視点で議論する	全てのステークホルダー	来場者数：約 150 人	・年一度	○
(追加)	add-1-12	プレスリリースの発信	協会事業の情報発信を行い、認知拡大・話題醸成を図る。	協会	協会 HP での掲載の他、関係する記者クラブ・メディア等へ情報を発信。	協会事業の情報発信を行い、認知拡大・話題醸成を図る。	来場者、出展者等、市民・地域社会	未算定	・各事業の情報発信時期に応じて実施。	○
(追加)	add-1-13	記者会見・メディアブリーフィングの実施	協会事業の積極的・能動的発信を行い、認知拡大・話題醸成を図る。また、メディアを対象に GREEN×EXPO 2027 への理解を深めていただくための機会として記者会見やブリーフィングを実施。	協会	記者会見・ブリーフィングを通じて情報発信。	GREEN×EXPO の認知拡大・話題醸成、及びメディアの方の理解を深めていただく。	来場者、出展者等、市民・地域社会	未算定	・2026 年上期 月 1 回 ・2026 年下期 月 1 ～2 回	○

目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象人数	タイムライン (頻度・時期)	更新
(追加)	add-1-14	公式記録集の作成	GREEN×EXPO の開催について、その内容を公式記録として残し、後世に伝えていく。	協会	公式記録集を作成の上、関係者へ配布予定。	GREEN×EXPO の開催について、その内容を公式記録として残し、後世に伝えていく。	出展者等、市民・地域社会、政府・自治体、協会職員・運営スタッフ	未算定	・2028 年 9 月頃	○
(追加)	add-1-15	ラボ会議	幸せを創る明日の風景の実現	協会	月に 2 回対面オンライン併用形式で開催	建築、農・園芸、催事運営、デザイン等の各専門家がメンバーとなり、協会の方針について有識者の意見を踏まえ検討・協議する	有識者（ラボ員）	20 名程度	・月に 2 度程度	○
(追加)	add-1-16	持続可能性有識者委員会	持続可能性の取組と魅力の向上を図る	協会	専門的視点から意見及び提案を行う委員会を開催	サステナビリティに配慮した園芸博を実現する	有識者等、協会職員・運営スタッフ等	有識者：5 人	・2023～2028 年度各 2 回程度開催。	○
(追加)	add-1-17	アクセシビリティに関する意見交換	全ての人が安全・快適に過ごせるように配慮した整備・運営を行う	協会	アクセシビリティに関する学識経験者及び当事者と意見交換を実施	全ての人が安全・快適に過ごせるように配慮した園芸博を実現する	来場者、市民・地域社会、有識者等、協会職員・運営スタッフ等	学識経験者、当事者：約 30 人	・意見交換会を 2025～2027 年度各 3 回程度開催。ほか、個別にヒアリング、意見交換を実施。	○
(追加)	add-1-18	輸送対策協議会	来場者の円滑かつ安全な輸送の計画策定に向け、来場者輸送の具体的な対策について、協議、調整を行う。	協会	協議会の開催	来場者の主要な輸送経路となる道路・鉄道について、関係する行政機関及び関係団体の意見や知見を踏まえ各ワーキンググループを設置しながら、検討を行う	事業者、政府・自治体等	協議会参加者：34 名	・2022 年度から 2025 年度にかけて計 9 回開催	○
(追加)	add-1-19	来場者輸送技術検討会	来場者の円滑かつ安全な輸送の計画策定に向け、特定の事項について、技術的な見地から専門的な検討を行う。	協会	検討会の開催	技術的な見地から専門的な検討を行う	事業者、政府・自治体等	検討会参加者：4 名	・2022 年度から 2025 年度にかけて計 10 回開催 ※このほかに個別相談も実施	○

目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象人数	タイムライン (頻度・時期)	更新
(追加)	add-1-20	交通円滑化推進会議	住民や企業等の交通にあたっての行動変容を促す取り組みを関係者が一体となって検討・調整し、広く協力を働きかけ、円滑なGREEN×EXPO 2027の来場者輸送と都市活動の両立をめざす	横浜市 神奈川県 協会	推進会議の開催	地域社会において、在宅勤務や時差出勤、会場周辺の迂回など、住民や企業等の交通にあたっての行動変容を促す取り組みを関係者が一体となって検討・調整し、広く協力を働きかける。	事業者、政府・自治体等	推進会議参加者：22名	・2025年度に計1回開催	○
(追加)	add-1-21	花と緑の共創推進会議	花・緑出展の出展者及び花と緑の共創推進会議構成団体を対象に、花・緑出展の出展内容(10者)を公表する	協会	会議の開催(対面)	花・緑出展(10者)の出展内容を公表する	花と緑の共創推進会議 花・緑出展者(企業・団体・個人、自治体)	花と緑の共創推進会議：43団体 花・緑出展者：360団体程度	・2026年2月19日	○
(追加)	add-1-22	リフィル・サークュラーププロジェクト	酷暑という博覧会最大のリスクを「科学・環境・循環」で解決し、次世代の都市運営モデル「横浜モデル」を世界へ発信	協会	対面式・オンライン会議(ハイブリッド)	民間事業者、横浜市、学識者を協会がPMOとして束ね、暑熱対策・水資源PR・脱炭素の観点で構築する	来場者、スタッフ、事業者、有識者、横浜市	来場者：1,000万人 スタッフ：1.6万人	・2026年5月から開催	○
(追加)	add-1-23	首都圏を中心としたイベントでの出張チケット販売	首都圏の集客イベントに出向き、販売機会を広げ、多様な方々にチケットを届ける	協会	対面販売	関心層を広げつつ、直接働きかけ、販売機会を広げる	来場者	有料来場者数：1,000万人以上	・2026年4月以降順次	○
(追加)	add-1-24	入場チケット販売に係る販売事業者向け説明会	販売ルールの統一と誤解防止、販売チャネルの拡大を図りつつ、販売事業者との協働体制を構築し、チケット販売の最大化と適正運用を実現する	協会	説明会の開催(対面、オンライン)	誰もがチケットを購入しやすい環境づくりを進めていく	チケット委託販売事業者	順次拡大	・第1回説明会：2025年12月18日、19日、22日 ・教育旅行説明会：2026年2月6日 ・第2回説明会(アーカイブ動画公開)：2026年4月6日	○
(追加)	add-1-25	International Participants Meeting(国際参加者会議)	公式参加者に対し、出展や催事等、博覧会の参加に際し必要な情報や手続きについて説明する	協会	説明会の開催(対面、オンデマンド配信)	公式参加者へ留意事項やルール等への理解を促し、特色ある出展や催事を行ってもらう	公式参加者	84か国・機関程度	2026年6月以降(頻度未定)	○

目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象人数	タイムライン (頻度・時期)	更新
(追加)	add-1-26	One-Stop Shop	公式参加者に対し、建築や査証、口座開設などの手続きにかかる窓口を設置し、問合せや申請を受け付ける	協会	対面での窓口を開設	日本の制度や手続きに不慣れな公式参加者の負担を軽減する	公式参加者	84 か国・機関程度	2026 年 6 月以降 (頻度未定)	○
(追加)	add-1-27	Village 出展者・テーマ営業出店者向け説明会	Village 出展者・テーマ営業出店者を対象に、計画状況や留意事項等を説明するとともに、情報交換・交流の場を設けることで、円滑な情報連携を目指す。	協会	説明会の開催 (対面、オンライン)	Village 出展者・テーマ営業出店者を対象に、計画状況や留意事項等を説明するとともに、情報交換・交流の場を設けることで、円滑な情報連携を目指す	Village 出展者・テーマ営業出店者、協賛者、横浜市、神奈川県、事業者	対象：22 団体	・ 2 か月に 1 回	○
(追加)	add-1-28	花・緑出展展示計画書・施工等説明会	花・緑出展の出展者に対して展示計画書の記載方法、施工ルール、必要書類の提出等を説明する	協会	説明会の開催 (対面、オンデマンド配信)	花・緑出展の出展者に対して展示計画書や施工ルールを理解いただく	花・緑出展者（企業・団体・個人、自治体）	360 団体程度	①展示計画書 ・ 屋外：2025 年 4 ～ 5 月 ・ 屋内：2025 年 9 ～ 10 月 ②施工 ・ 屋外：2026 年 2 月 ・ 屋内：2026 年夏ごろ	○
(追加)	add-1-29	花・緑出展維持管理・撤去説明会	花・緑出展の屋外出展者に対して維持管理や撤去に関する運用ルール等について説明する	協会	説明会の開催 (対面、オンデマンド配信)	花・緑出展の屋外出展者に対して維持管理や撤去・原状復帰ルールを理解いただく	花・緑出展者（企業・団体・個人、自治体）	170 団体程度	①維持管理：2026 年秋以降 ②撤去：2027 年中	○
(追加)	add-1-30	公式スタンプラリー	本園芸博の出展者と開催者が共同して創りあげ、来場者に、万博で楽しんだ、という経験を思い出として持ち帰っていただく	協会	アプリの提供、専用グッズの販売、周遊スポットの設置	広大な EXPO 会場を回る行為自体をエンタメ化し、会場内各施設に横串を指すことを目指す	来場者	未算定	・ 2026 年 12 月（100 日前）を目途に特設サイト公開 ・ 2027 年 1 月スタンプ帳販売予定	○
(追加)	add-1-31	グリーンテックジャーニー	本園芸博の会場全体を 1 つのパビリオンと捉え、博覧会の意義を直感的に体験する機会を来場者に提供する。また、会場外・会期前後にもスポットを設置することで、時間的、面的な広がりを持たせる。	協会	アプリの提供、専用グッズの販売、周遊スポットの設置	来場者がグリーン社会の実現を目指す本園芸博の意義を感じ、環境意識の改善やその後の行動変容に至ることを促進させる	来場者	グッズ購入者 100 万人	・ 2026 年 12 月（100 日前）に公開 ・ 以降、コンテンツを配信	○

※目標：実施計画に記載した目標・アクションのうち、サステナビリティ C&E に関する目標・アクションを記載。C&E 計画の策定時及び更新時における追加的なアクションを「追加」として記載。

※ID：実施計画に記載のアクション ID と連動。add-x-xx は、教育計画と連動。

各アクションについて、どのステークホルダーを主な対象者としているかを明確にするため、表で記載する。前述したアクションの表の「主な対象者」に記載した対象者について、以下の表に「○」を記載している。

ID	アクション	主な対象者								
		来場者	出展者等	ボランティア	市民・地域社会	NPO・NGO	事業者	有識者等	政府・自治体	協会職員・運営スタッフ等
9-3-1	アクセシビリティ・ガイドラインの策定・推進	—	○	—	—	—	○	—	—	○
10-1-3	海外からの参加者（公式参加者）への各種規則・ガイドライン等の策定・周知	—	○	—	—	—	—	—	—	—
12-2-1	プレイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12-2-2	ポストイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12-2-3	サステナビリティ及びレガシーレポートの策定・AIPH 報告	○	○	○	○	○	○	○	○	○
add-0-1	協会職員への研修の実施	—	—	—	—	—	—	—	—	○
add-0-3	公式ウェブサイトでの情報発信	○	○	○	○	○	○	○	○	○
add-0-4	公式 SNS の活用	○	○	○	○	○	○	○	○	○
add-0-5	公式アンバサダーによる機運醸成	○	○	○	○	○	○	○	○	○
add-0-6	公式マスコットキャラクターの活用	○	○	○	○	○	○	○	○	○
add-0-7	全国都市緑化フェアとの連携	○	○	—	○	—	—	—	—	—
add-0-8	浜名湖花博 2024（20 周年記念事業）との連携	○	○	—	○	—	—	—	—	—
add-0-9	ガーデンネックレス横浜との連携	○	○	—	○	—	—	—	—	—
add-0-10	横浜フラワー&ガーデンフェスティバルとの連携	○	○	—	○	—	—	—	—	—
add-0-11	開催 1000 日前イベントの実施	○	○	—	○	—	—	—	—	—
add-0-12	県立横浜瀬谷高等学校等による「フラワーロードプロジェクト」との連携	—	—	—	○	—	—	—	—	—
add-0-13	県立農業高校との共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」の推進	—	—	—	○	—	—	—	—	—
add-0-14	ヨコハマ未来創造会議との連携	—	—	—	○	—	—	—	—	—
add-0-15	大学共創フォーラムの開催	—	—	—	○	—	—	—	—	—
add-0-16	教育プログラム コンセプトブックの活用	○	—	—	○	—	—	—	—	—
add-0-17	「応援メッセージ付き公式ロゴマーク」を使った市民参加の活動の推進	—	—	—	○	○	○	—	—	—
add-0-18	ボランティア等の市民参加の推進	—	—	○	○	○	—	—	—	—
add-0-20	公式参加者（国・国際機関）の出展を通じた情報発信	○	—	—	—	—	—	—	—	—
add-0-21	花・緑出展を通じた情報発信	○	—	—	—	—	—	—	—	—
add-0-22	Village 出展を通じた情報発信	○	—	—	—	—	—	—	—	—
add-1-1	ネイチャーポジティブの実現に向けた取組に関する情報発信	○	○	○	○	○	○	○	○	○

ID	アクション	主な対象者								
		来場者	出展者等	ボランティア	市民・地域社会	NPO・NGO	事業者	有識者等	政府・自治体	協会職員・運営スタッフ等
add-1-2	参加ガイドラインの策定・推進	—	○	—	—	—	○	—	—	—
add-1-5	テーマ催事を通じた情報発信	○	—	—	—	—	—	—	—	—
add-1-6	ダイバーシティ&インクルージョンに関する情報発信	○	—	—	○	—	—	○	○	○
add-1-9	ユニフォームに係る資源循環の取組発信	○	—	○	○	—	○	—	—	○
add-1-10	「人・自然・生命」シンポジウム	○	○	○	○	○	○	○	○	○
add-1-11	庭園フォーラム	○	○	○	○	○	○	○	○	○
add-1-12	プレスリリースの発信	○	○	—	○	—	—	—	—	—
add-1-13	記者会見・メディアブリーフィングの実施	○	○	—	○	—	—	—	—	—
add-1-14	公式記録集の作成	—	○	—	○	—	—	—	○	○
add-1-15	ラボ会議	—	—	—	—	—	○	○	○	○
add-1-16	持続可能性有識者委員会	—	—	—	—	—	—	○	—	○
add-1-17	アクセシビリティに関する意見交換	○	—	—	○	—	—	○	—	○
add-1-18	輸送対策協議会	—	—	—	—	—	○	—	○	—
add-1-19	来場者輸送技術検討会	—	—	—	—	—	○	—	○	—
add-1-20	交通円滑化推進会議	—	—	—	—	—	○	—	○	—
add-1-21	花と緑の共創推進会議	—	○	—	—	—	—	○	—	—
add-1-22	リフィル・サーキュラープロジェクト	○	○	○	—	—	○	○	○	○
add-1-23	首都圏を中心としたイベントでの出張チケット販売	○	—	—	—	—	—	—	—	—
add-1-24	入場チケット販売に係る販売事業者向け説明会	—	—	—	—	—	○	—	—	—
add-1-25	International Participants Meeting(国際参加者会議)	—	○	—	—	—	—	—	—	—
add-1-26	One-Stop Shop	—	○	—	—	—	—	—	—	—
add-1-27	Village 出展者・テーマ営業出店者向け説明会	—	○	—	—	—	—	—	○	○
add-1-28	花・緑出展 展示計画書・施工等説明会	—	○	—	—	—	—	—	—	—
add-1-29	花・緑出展 維持管理・撤去説明会	—	○	—	—	—	—	—	—	—
add-1-30	公式スタンプラリー	○	—	—	—	—	—	—	—	—
add-1-31	グリーンテックジャーニー	○	—	—	—	—	—	—	—	—

2.2 ガントチャート

「2.1 アクション」で設定した、各アクションの実施スケジュールをガントチャートで記載する。

ID	アクション	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
9-3-1	アクセシビリティ・ガイドラインの策定・推進						
10-1-3	海外からの参加者（公式参加者）への各種規則・ガイドライン等の策定・周知						
12-2-1	プレイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告						
12-2-2	ポストイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告						
12-2-3	サステナビリティ及びレガシーレポートの策定・AIPH 報告						
add-0-1	協会職員への研修の実施						
add-0-3	公式ウェブサイトでの情報発信						
add-0-4	公式 SNS の活用						
add-0-5	公式アンバサダーによる機運醸成						
add-0-6	公式マスコットキャラクターの活用						
add-0-7	全国都市緑化フェアとの連携						
add-0-8	浜名湖花博 2024（20 周年記念事業）との連携						
add-0-9	ガーデンネックレス横浜との連携						
add-0-10	横浜フラワー＆ガーデンフェスティバルとの連携						
add-0-11	開催 1000 日前イベントの実施						
add-0-12	県立横浜瀬谷高等学校等による「フラワーロードプロジェクト」との連携						
add-0-13	県立農業高校との共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」の推進						
add-0-14	ヨコハマ未来創造会議との連携						
add-0-15	大学共創フォーラムの開催						
add-0-16	教育プログラム コンセプトブックの活用						
add-0-17	「応援メッセージ付き公式ロゴマーク」を使った市民参加の活動の推進						
add-0-18	ボランティア等の市民参加の推進						
add-0-20	公式参加者（国・国際機関）の出展を通じた情報発信						
add-0-21	花・緑出展を通じた情報発信						
add-0-22	Village 出展を通じた情報発信						
add-1-1	ネイチャーポジティブの実現に向けた取組に関する情報発信						
add-1-2	参加ガイドラインの策定・推進						
add-1-5	テーマ催事を通じた情報発信						
add-1-6	ダイバーシティ＆インクルージョンに関する情報発信						
add-1-9	ユニフォームに係る資源循環の取組発信						
add-1-10	「人・自然・生命」シンポジウム						

ID	アクション	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
add-1-11	庭園フォーラム						
add-1-12	プレスリリースの発信						
add-1-13	記者会見・メディアブリーフィングの実施						
add-1-14	公式記録集の作成						
add-1-15	ラボ会議						
add-1-16	持続可能性有識者委員会						
add-1-17	アクセシビリティに関する意見交換						
add-1-18	輸送対策協議会						
add-1-19	来場者輸送技術検討会						
add-1-20	交通円滑化推進会議						
add-1-21	花と緑の共創推進会議						
add-1-22	リフィル・サーキュラープロジェクト						
add-1-23	首都圏を中心としたイベントでの出張チケット販売						
add-1-24	入場チケット販売に係る販売事業者向け説明会						
add-1-25	International Participants Meeting(国際参加者会議)						
add-1-26	One-Stop Shop						
add-1-27	Village 出展者・テーマ営業出店者向け説明会						
add-1-28	花・緑出展 展示計画書・施工等説明会						
add-1-29	花・緑出展 維持管理・撤去説明会						
add-1-30	公式スタンプラリー						
add-1-31	グリーンテックジャーニー						

3 評価

「2 実施計画」に記載したアクションのうち、C&E 計画の策定及び更新時点で実施したアクションについて、日程、実施人数、振り返り（良い点、改善点）の評価を記載する。

記載項目	概要
日程	アクションを実施した日程
実施人数	アクションを実施した対象人数
振り返り（良い点、改善点）	アクションを実施した振り返り（良い点、改善点）

ID	アクション	日程	実施人数	振り返り（良い点、改善点）	更新
9-3-1	アクセシビリティ・ガイドラインの策定・推進	・検討会の開催：2024 年度 ・アクセシビリティ・ガイドラインの策定：2025 年 3 月	未算定	・検討会を開催し、学識経験者や当事者等の意見を踏まえたガイドラインを策定した。	○
10-1-3	海外からの参加者（公式参加者）への各種規則・ガイドライン等の策定・周知	・一般規則の策定：2022 年 11 月 BIE 承認 ・特別規則の策定：2023 年 6 月以降 BIE 承認 ・2026 年 6 月の BIE 総会にてすべて正式承認予定	未算定	・各種規則・ガイドライン等を策定・周知し、海外からの参加者（公式参加者）に適切に情報提供できている	○
add-0-1	協会職員への研修の実施	・転入者研修：職員着任時	未算定	・協会の転入者に対して、サステナビリティを含む研修を実施した	
add-0-3	公式ウェブサイトでの情報発信	・公式ウェブサイトでの情報発信を随時実施	未算定	・公式ウェブサイトで、本園芸博の開催概要や検討状況のほか、事業者等の出展・参加、サステナビリティ等の情報を海外も含めて発信 ・更なる情報の充実・発信に努める	
add-0-4	公式 SNS の活用	・公式 SNS を活用した情報発信を随時実施	公式 SNS（Instagram）のフォロワー数：約 8 万人（2026 年 3 月 31 日時点）	・公式 SNS を活用して、イベント情報や協会の取組を発信できている ・更なる情報の充実・発信に努める	○

ID	アクション	日程	実施人数	振り返り（良い点、改善点）	更新
add-0-5	公式アンバサダーによる 機運醸成	・開催 500 日前（2025 年 10 月 29 日）、開催 1 年前（2026 年 3 月 19 日）の記者発表会に登壇 ・新たな公式アンバサダーとして「ゆず（ミュージシャン）」の就任を発表:2026 年 3 月 19 日	未算定	・節目の機会に公式アンバサダーの芦田愛菜（俳優）とゆず（ミュージシャン）に登壇し、全国的な話題を提供した ・横浜出身のゆず（ミュージシャン）が公式アンバサダー就任と合わせてコラボレーションソングの制作を発表する等、園芸博の機運醸成を図った	○
add-0-6	公式マスコット キャラクターの活用	・マスコットの発表・名前の公募：2024 年 3 月 19 日 ・マスコットの名前「トウクトウク」の決定：2024 年 6 月 22 日 ・オフィシャルストア第 1 号店&第 2 号店オープン：2025 年 3 月 18 日 ・常設オフィシャルストアが 4 店舗オープン：2025 年度随時 ・マスコットの活用：～開催期間	名前応募： 6,076 件	・公式ライセンス商品やオフィシャルストアの様子が多数のメディアで紹介されるほか、ステークホルダーによりトウクトウクが広報に活用されるなど、機運醸成を図った。 ・今後、更なる機運醸成に活用する	○
add-0-7	全国都市緑化フェア との連携	・仙台フェア：2023 年 4 月 26 日～6 月 18 日 ・かわさきフェア：2024 年 10 月 19 日～11 月 17 日、2025 年 3 月 22 日～4 月 13 日 ・岐阜フェア：2025 年 4 月 23 日～6 月 15 日	仙台フェア来場者数：115 万 7 千人 川崎フェア来場者数：162 万人 岐阜フェア：200 万人	・フェアと連携、出展し、本園芸博の機運醸成を図った	○
add-0-8	浜名湖花博 2024（20 周年 記念事業）との連携	・浜名湖花博 2024 との連携：2024 年 3 月 23 日～6 月 16 日	来場者数： 約 100 万人	・ステージイベントに参加し、本園芸博の機運醸成を図った	
add-0-9	ガーデンネックレス横浜 との連携	・ガーデンネックレス横浜 2024 への参加：2024 年 5 月 3 日～6 月 9 日 ・ガーデンネックレス横浜 2025 への参加：2025 年 3 月 19 日～6 月 15 日	未算定	・ガーデンネックレス横浜で連携企画を実施するなど、本園芸博の機運醸成を図った	○

ID	アクション	日程	実施人数	振り返り（良い点、改善点）	更新
add-0-10	横浜フラワー＆ガーデンフェスティバルとの連携	・横フラ 2024 への参加：2024 年 5 月 3 日～6 日 ・横フラ 2025 への参加：2025 年 5 月 3 日～5 日	2024 来場者数：約 3 万 5 千人 2025 来場者数：約 3 万 5 千人	・横フラで連携企画を実施するなど、本園芸博の機運醸成を図った	○
add-0-11	開催 1000 日前イベントの実施	・イベント実施：2024 年 6 月 22～23 日	来場者数：約 3 万人	・約 3 万人に来場いただき、本園芸博の機運醸成を図った	
add-0-12	県立横浜瀬谷高等学校等による「フラワーロードプロジェクト」との連携	・第 5 回プロジェクト：2023 年 12 月 10 日 ・開催 1000 日前 記者発表会での活動の紹介：2024 年 6 月 22 日 ・2025 年 5 月 10 日/12 月 13 日(ハマロード・サポーター制度活用清掃・植栽)	第 5 回プロジェクト：約 250 人	・地元の高校等による市民参加の活動を通じて、機運醸成を図った	○
add-0-13	県立農業高校との共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」の推進	・CLUB の立ち上げ：2023 年 12 月 8 日 ・プレゼン発表会の開催：2024 年 6 月 17 日 ・かわさきフェアとの連携・出展：2024 年 10 月 19 日～11 月 17 日 ・出展計画ワーキングの開催：2025 年 12 月 12 日 ・GREEN×EXPO 2027 本番での庭園出展：2027 年 3 月 19 日～9 月 26 日	高校生メンバー：75 人（2025 年度）	・各学校の生徒によるプレゼンテーション、協会の幹部や職員との意見交換ができた ・フェアと連携、出展し、本園芸博の機運醸成を図った ・生徒同士の意見交換により、出展計画のブラッシュアップができた	○
add-0-14	ヨコハマ未来創造会議との連携	・キックオフイベントの開催：2023 年 12 月 10 日 ・本格始動フラッグアップイベントの開催：2024 年 7 月 30 日 ・中間発表会の開催：2024 年 10 月 8 日 ・ワークショップの開催：月 1 回	ヨコハマ未来創造会議メンバー：約 120 人	・若者たちが主体的・自発的に分科会活動に取り組んでおり、応援の輪が広がっている	
add-0-15	大学共創フォーラムの開催	・フォーラムの開催：2024 年 5 月 31 日、6 月 5 日	参加者数：29 大学、48 人	・フォーラムの開催を通じて、大学の参加・連携等について、ご理解いただいた	

ID	アクション	日程	実施人数	振り返り（良い点、改善点）	更新
add-0-16	教育プログラム コンセプトブックの活用	・コンセプトブックの公表：2024 年 11 月	未算定	・コンセプトブックを公表し、児童・生徒の探究学習の機会を提供中	○
add-0-17	「応援メッセージ付き公式ロゴマーク」を使った市民参加の活動の推進	・市民活動の募集開始：2024 年 7 月～	登録件数：213 件 (2026 年 3 月 31 日時点)	・市民活動による応援の輪を広げ、市民との一体感を高められている	○
add-0-18	ボランティア等の市民参加の推進	・「花・緑ガイドボランティア」募集：2025 年 11 月～2026 年 1 月 ・「植物管理ボランティア」「運営ボランティア」募集：2026 年 2 月～	「花・緑ガイドボランティア」応募人数：3,493 人（2026 年 1 月締め切り） 「植物ボランティア」「運営ボランティア」応募人数：8,097 人（2026 年 3 月 29 日時点）	・募集相談会や募集広報活動を通して、市民のボランティア参加を促し、市民参加の推進、機運醸成を図った。	○
add-1-1	ネイチャーポジティブの実現に向けた取組に関する情報発信	・大阪・関西万博会場にて、ネイチャーポジティブに関するトークイベントに登壇：2025 年 9 月 20 日 ・気候変動枠組条約 COP30(ブラジル・ペレン) にてサイドイベント実施：2025 年 11 月 15 日 ・IGES 主催のネイチャーポジティブセミナーに登壇：2026 年 1 月 28 日	未算定	・様々な機会を通じて、国内外へ向けた発信ができた。	○
add-1-2	参加ガイドラインの策定・推進	・2023 年度：2 本 ・2024 年度：2 本 ・2025 年度：12 本 ※随時更新し発出する性質のため、初出時期を記載。	未算定	・関係機関と調整のうえ参加ガイドラインを策定し、主に公式参加者の出展準備の進度にあわせて、各出展者形態向けページや説明会の機会を通じて、情報発信した。	○
add-1-6	ダイバーシティ&インクルージョンに関する情報発信	・2026 年 3 月 4 日に「国際女性デー」にあわせたイベントを実施	約 150 人	・メディアでの取り上げもあり、内外への発信力強化に繋がっている	○

ID	アクション	日程	実施人数	振り返り（良い点、改善点）	更新
add-1-9	ユニフォームに係る資源循環の取組発信	①メディアカンファレンス：2026年3月25日 ②VIP アテンダントスタッフユニフォーム発表会：2026年5月2日	①約100人（聴講者、参加者） ②約200人（聴講者、参加者）	・カンファレンスや発表会を通じて、聴講者及び記事等で市民に取組を周知することができた	○
add-1-10	「人・自然・生命」シンポジウム	・第一回 2024年3月10日 ・第二回 2025年11月28日 ・第三回 2026年8月28日	約300人	・一般の人にも広く知ってもらった機会になった。	○
add-1-11	庭園フォーラム	・第1回：2024年5月13日 ・第2回：2025年5月18日 ・第3回：2026年5月20日	約150人	・日本庭園に興味がある層にも知ってもらった機会になった。	○
add-1-12	プレスリリースの発信	・随時（各業務分野にて発信する情報がある時点）	未算定	・リリースを通じて、各の事業を発信し、メディアにも取り上げられることで機運醸成を図ることができた。	○
add-1-13	記者会見・メディアブリーフィングの実施	・メディアブリーフィング：2026年3月10日 ・定例記者会見：未実施 ※今後月1～2回を目途に実施	未算定	・メディアブリーフィングを通じて、博覧会事業について発信出来た他、メディアとの関係構築を行った。	○
add-1-15	ラボ会議	・月に2度程度(木曜日)	ラボ員10人	・開催に向け着実に検討を進められている	○
add-1-16	持続可能性有識者委員会	・2023年度：10月23日、12月19日 ・2024年度：9月11日、12月4日 ・2025年度：9月9日、2026年1月13日	各回：有識者5人	・有識者の意見を踏まえた持続可能性の取組と魅力の向上が進んでいる	○
add-1-17	アクセシビリティに関する意見交換	・意見交換会の実施：2025年8月6日、11月21日、2026年2月13日	各回：学識経験者や当事者約30人	・学識経験者や当事者の意見を踏まえた会場整備や運営の検討が進んでいる	○
add-1-18	輸送対策協議会	・2022年度から2025年度にかけて計9回開催	協議会参加者：34人	・「来場者輸送基本計画」や「実施計画」を策定し、対策を実施中	○

ID	アクション	日程	実施人数	振り返り（良い点、改善点）	更新
add-1-19	来場者輸送技術検討会	・ 2022 年度から 2025 年 度にかけて計 10 回開催 ※この他に個別相談も実施	検討会参加者： 4 人	・「来場者輸送基本計画」や「実施計画」を策定し、対策を実施中	○
add-1-20	交通円滑化推進会議	・ 2025 年度に計 1 回開催	推進会議参加者：22 人	・ 地元の経済活動や住民生活への影響を最小限にするために、丁寧な説明及び協力要請を重視することを確認した。	○
add-1-21	花と緑の共創推進会議	・ 2026 年 2 月 19 日	約 400 人	・ 花・緑出展（10 者）の出展内容を出展者自ら発表いただき、メディアにも取り上げられた。	○
add-1-23	首都圏を中心としたイベントでの出張チケット販売	・ 里山ガーデンフェスタ：2026 年 4 月 29 日 ・ 横浜フラワー＆ガーデンフェスティバル：2026 年 5 月 2 日～5 月 4 日 ・ フラワーフェスティバル 2026：2026 年 5 月 3 日～5 月 6 日	未算定	・ 認知度向上とチケット販促につながっている	○
add-1-24	入場チケット販売に係る販売事業者向け説明会	・ 第 1 回説明会：2025 年 12 月 18 日、19 日、22 日 ・ 教育旅行説明会：2026 年 2 月 6 日 ・ 第 2 回説明会（アーカイブ動画公開）：2026 年 4 月 6 日	未算定	・ 販売チャネルの拡大と販売ルールの統一を進め、誤解防止を図りつつ、販売事業者との協力体制を構築できた	○
add-1-27	Village 出展者・テーマ営業出店者向け説明会	・ 2024 年度：2 回 ・ 2025 年度：6 回	対象：22 団体	・ 出展者・出店者に対して情報提供が行え、各企業・団体が抱える課題を共有し、解決へ向けて意見交換ができた。	○
add-1-28	花・緑出展 展示計画書・施工等説明会	①展示計画書 ・ 屋外：2025 年 4～5 月 ・ 屋内：2025 年 9～10 月 ②施工 ・ 屋外：2026 年 2 月 19 日 ・ 屋内：2026 年夏ごろ	対象：360 団体等以上	展示計画書や施工関係書類に記載が必要な内容について理解いただいた。	○